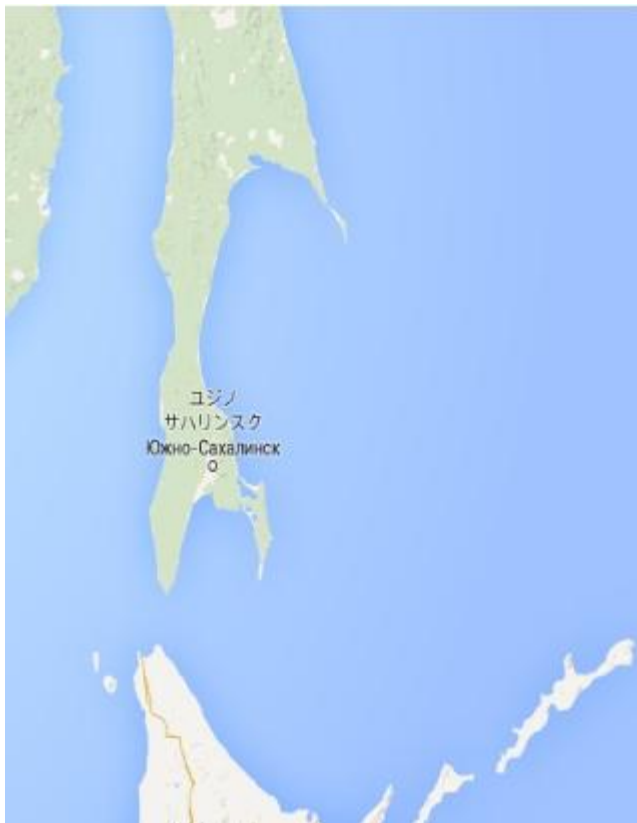




稚内とサハリンの架け橋に！！



## 対ロシアビジネスの歩み



# САХАЛИН

# БАЗАР

株式会社 ホクユーストア

吉川 勝

# これまでの実績

(1)平成 9年(1997年)から平成16年(2004年)迄

稚内港よりサハリンへの輸出実績

★北海道産 玉ネギ 約6000ト

★真空パック とうもろこし 25000本

★青森県産、北海道産 りんご約150ト ★ティッシュペーパー(1箱50入) 1300箱

積出しの様子



# 当時の玉ネギ輸出関係の新聞記事 その1

## タマネギ輸出でサハリン結ぶ

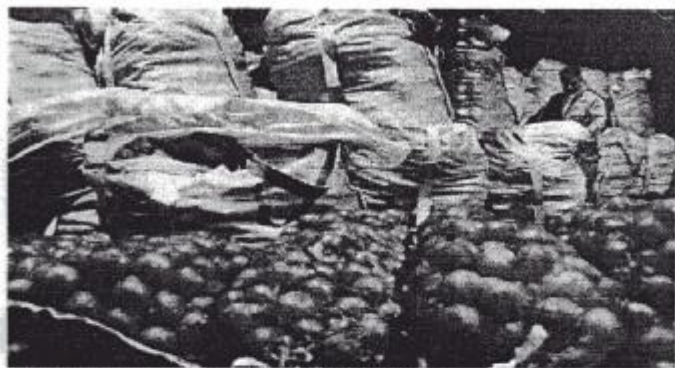
稚内でスーパー経営 吉川 勝さん(43)



「サハリンから、タマネギが輸出されるじゃないか。その仕上げ人は、稚内の食品スーパー『ホクニーストアー』の社長から」。十月十四日、稚内からサハリンへ、五十だ。

植物防疫所(種防)のないう稚内港から、まとまった量の生鮮食品が送り出されるのは初めてで、しかも一民間人による輸出ということまで注目されている。稚内で今、サハリンとのビジネスが油田開発の後方支援基地の誘致絡みで活発に動き出している。しかし、リスク承知の前進きのものは少ない。稚内へは、今年すでに船員を中心に五万人を超えるロシア人がやって来た。人の交流は着実に進んでいるが、物の交流はこれからだ。その中で去年三月、ロシアとの接点を求め市内にロシア人向けの食品スーパー「バザール・サハリン」を開いた。サハリンへも何回か足を運び、知る人ぞ知るロシア人だ。タマネギは、代金決済で問題がなければ、来年三月までに合計三千トンを積み送られる予定だ。

## サハリンへ



防疫検査も済み、稚内からサハリンへ船積みされるのを待つタマネギ。稚内市港運町の日通岸税倉前で

## 稚内からタマネギ輸出

稚内の食品スーパー『ホクニーストアー』(吉野社)が、サハリン(ロシア)の国境まで運ぶ。

### 「小樽より優位」と業者 油田開発で飛躍予測も

輸出先はロシア・サハリンのようで、「国境に近く」ため、食料などの輸送コストの低減が、ロシアからの需要を生かす。稚内市食品卸売組合によると、同組合の小樽から送るよりも、稚内から送る方が輸送コストが安く、小樽の三分の一程度で済む。輸送コストが安く、冷蔵も必要ないという稚内港からのメリットも、輸出に有利だ。

今秋、サハリン・ロシアが本格的に動き出す。稚内には地産地消の拠点として、今年中にも、生活必需品の供給地として、輸出が活発化すると見られている。稚内港は、今秋国境を越えて、稚内港からロシアへ輸出がスタートした。

が、稚内からの輸出実績と比べて、稚内港の輸送コストは、小樽より高いと指摘している。稚内市食品卸売組合の担当者は、稚内港のメリットを生かして、稚内港からの輸出を促進したいとしている。

三日前、稚内港から第一航路で五千入りのタマネギが、稚内港から稚内港へ輸出された。稚内港からの輸出は、稚内港の輸出実績を伸ばす。稚内港の輸出実績は、稚内港からの輸出実績を伸ばす。稚内港の輸出実績は、稚内港からの輸出実績を伸ばす。

# 当時の玉ネギ輸出関係の新聞記事 その2

1998年(平成10年)4月4日(土)

97年度、稚内港からサハリンへ

## 玉ネギ 1080トン輸出



【稚内】稚内市の食料品店ホムエーストナ(川勝社長)が昨年十月から始めた、サハリンへの一九九七年産玉ネギの輸出が終わった。稚内港からの最後の積出しが行われ、通算九回で総輸出量は玉ネギ一千八百八十トン、リンゴ百十の計二千九百八十トン。同港からの生鮮食料品輸出の可能性を大きく広げた。植物防疫検査体制の充実など今後の課題も浮き彫りになった。

### 通算9回で終了 防疫充実が課題

稚内からの本格的な玉ネギの輸出は今回が初めて、サハリンの輸入業者からの注文は手紙をとり、最終的には約四百五十トンが不足した形になったという。川社長は「今回以降は和紙が出たわけではなく、再地のニーズは十分あることがわかった。サハリンへの生鮮食料品輸出では稚内は地理的にも有利」と今後の対サハリン貿易拡大期待をかけている。

課題は植物防疫検査。稚内には植物防疫所の事務所がないため、輸出のために輸出事務所を出向してきて検査を受ける。まずは、輸出基地としての条件を揃えたい。二入しかいがないため検査は対応できないのが現状。昨年十二月には生産地・北見が「

ら留閉し輸送して検査し、稚内港に運込むこともあった。このため、数回二夫市長らが二月に農水省を訪れた。

また、生鮮食料品の輸出には温度管理できる保冷倉庫が必要だが、現在では保冷剤を利用しているため、積み込みまでの時間短縮を急ぐことも必要という。

九八年産の玉ネギ輸出は今秋から、川社長は「生鮮食料品の輸出が増えれば、輸出基地としての条件も揃う。リスクはあるが、玉ネギ以外でも後述したい」と話している。

## 挑む

### サハリン特需

「挑む」の字は、北極圏を意味する。稚内市にある「挑む」は、ロシアの食料品店「バザールサハリン」は、ロシア人船員に必要不可欠なロシア産品を供給している。稚内はロシアの食料品店「バザールサハリン」は、ロシア人船員に必要不可欠なロシア産品を供給している。

●高水準の入港数  
ナハリンまで約400キロの航路を航行するロシア人船員は、十三日、稚内港に到着した。稚内港には、ロシア人船員が乗る船が、毎年約二十隻、稚内港に寄港している。稚内港には、ロシア人船員が乗る船が、毎年約二十隻、稚内港に寄港している。



ロシア人船員でにぎわう食料品店「バザールサハリン」 陣旗さん。(左から2人目)のロシア語で一層話が弾む

### 経済効果は3百億円超 リスク覚悟、事業参入へ

稚内港の外国貿易船入港隻数(稚内港支署調べ)

年	隻数
1989	100
1990	150
1991	200
1992	250
1993	300
1994	350
1995	400
1996	450
1997	500
1998	400
1999	450
2000	400

●船員の健康衛生  
その一方で、サハリン特需品への関心も高まっている。稚内市には、ロシア人船員による食料品店「バザールサハリン」が、毎年約二十隻、稚内港に寄港している。

●稚内港の発展  
稚内港の発展には、ロシア人船員の増加が不可欠。稚内港には、ロシア人船員が乗る船が、毎年約二十隻、稚内港に寄港している。

(2)平成17年(2005年)より 平成20年(2008年)迄

サハリン2 プロジェクト向け

稚内港より日本食材 約50品目を輸出

世界的ケータリング会社であるフランス大手の  
ユニバーサルソディスコ社と独占契約

ロシアの認証制度 GOST-R を50品目取得

2004年(平成16年)7月10日 土曜日

### 稚内市のスーパー「北友ストア」(吉川勝社長)は、八月をメドにロシア・サハリン州に加工食品や生鮮野菜などを輸出する。世界最大の配せん業者、仏ソデスコと契約し、第一弾として日本人向けの食材を供給する。大規模地下資源開発が本格化する同州には、大手商社や欧米石油メジャーが進出しており、北友ストアは今後、稚内市の商店街なども連携して市場開拓を進める。 サハリンに食料品輸出配せんの大仕事と契約 ソデスコから既に受注した約五十万円の日本食料品は、約五百種類の加工食品や生鮮野菜、大豆、小麦、米、納豆、コメなどが輸出される。 **サハリンプロジェクトの主要拠点** - サハリン1 LNG 産出地 - サハリン2 LNG 産出地 - サハリン LNG 専用パイプライン - ソコリス LNG 産出地 - ホルムスク - サハリン LNG 専用パイプライン - 稚内 - 稚内・コルサコフ - 稚内フェリー - 稚内 - 稚内 - 稚内 - 稚内 稚内市のスーパー「北友ストア」(吉川勝社長)は、八月をメドにロシア・サハリン州に加工食品や生鮮野菜などを輸出する。世界最大の配せん業者、仏ソデスコと契約し、第一弾として日本人向けの食材を供給する。大規模地下資源開発が本格化する同州には、大手商社や欧米石油メジャーが進出しており、北友ストアは今後、稚内市の商店街なども連携して市場開拓を進める。 その店舗の大中山ぶでわら(渡島管内七飯町、筆村千恵子社長)は道立工業技術センター(函館市)と同様に、賞味期限を従来の五日間から十四日間に延ばした「ダットンソバの生めん」を開発した。今秋にも商品化する。これまで店頭と通信販売 ダットンソバ生めん 賞味期限14日に が大半百貨店に販売から、同社(函館市)の賞味期間を延ばして販売する。今秋にも商品化する。これまで店頭と通信販売



平成23年9月 北海道食品物産展の様子 その2



# 旭川産りんご・ナシの稚内港よりの試験輸出 その1

平成26年11月 稚内港より ロシアのチャーター船 WATER ISLANDへ  
りんご・ナシ・玉ネギの積み出し

【旭川】旭川市は今月下旬、地元農協などと連携し、ロシア・サハリン州ユジノサハリンスク市に、旭川産のりんごとナシの試験輸出を初めて行う。ユジノ市で日本産果物の評価が高いことに着目し、需要状況や輸送コストなどを調べ、販路拡大の可能性を探る。

旭川市農政部によると、輸出するのは主に同市の神居古潭地区で収穫されたりんご3000トとナシ100ト。ユジノ市では余市産りんごなど道産果物が人

## 旭川産の果物 ユジノへ

### りんごとナシ 試験輸出

【旭川】旭川市は9月に富良野市など道北8市とともにユジノ市で開いた道北物産展が盛況だったこともあり、地元産果物のよ

り一層のPRを図りたい考えだ。

旭川市は輸出にかかる経費20万円を助成する。旭川の生鮮食品卸業者を通じ、ロシア向

り一層のPRを図りたい考えだ。

旭川市は輸出にかかる経費20万円を助成する。旭川の生鮮食品卸業者を通じ、ロシア向

### 市など今月下旬 販路拡大探る

旭川市は9月に富良野市など道北8市とともにユジノ市で開いた道北物産展が盛況だったこともあり、地元産果物のよ

り一層のPRを図りたい考えだ。

旭川市は輸出にかかる経費20万円を助成する。旭川の生鮮食品卸業者を通じ、ロシア向



## 旭川産りんご・ナシの稚内港よりの試験輸出 その2

プレス 2014年(平成26年)11月25日(火曜日) (2)



きょう行われた貨物船への積み込み作業

# 1年ぶり玉葱輸出

## 北友ス トアー リンゴなど含め140トン

ロシアとの貿易を10年以上行っている北友ストアー(大黒2)が25日、サハリン州へ玉ネギ40トンなど1年ぶりに輸出した。ユジノサハリンスクの大型ショッピングモールで開かれている道北物産展で、玉ネギなど食料品を販売したことをきっかけに、サハリンなどに流通ネットワークを持つ「ミドグレン」(ユジノサハリンスク)という貿易会社から注文があった。輸出するのは北見産などの玉ネギで、半分はユジノのショッピングモールで販売し、残りはサハリン全土で流通される。玉ネギのほか旭川市からのリンゴ、ナシ約4000キログラムの果物も輸出した。25日は朝早くから税関など書類の手続きが行われたあと、午前9時過ぎから貿易会社がチャーターした貨物船にクレーンを使って玉ネギなどが積み込まれた。午後11時までに物損事故が稚内3件、猿払3件の計6件発生した。

### スリップ事故相次ぐ

けさ稚内などで物損事故6件発生

午前11時までに物損事故が稚内3件、猿払3件の計6件発生した。

東小でスキー寄贈をーと

東小(稚内市)で贈り物







# 北海道から初めてサハリンへの輸出を実現

損を覚悟で相手の要望に応え、海外展開に風穴。

株式会社 ホクユーストアー

代表取締役 吉川 勝 (よししかわ まさる)

Profile

1954年稚内市生まれ、創業者吉川富雄氏を引き継ぎ、93年より代表取締役。96年11月にロシア人専門店「サハリンバザール」をオープン。

## 言葉の壁は商人ならではの工夫でクリア

93年、吉川氏は先代から稚内市内にあるスーパーの経営を引き継いだ。業績がふるわず、この現状を打破しなければと策を練っていた。当時、ロシアからの外国船が稚内に多く乗り入っていたことに需要の可能性を見出し、ロシア人専門店「サハリンバザール」を96年3月に開業した。店舗は、日本の店と変わらず食品がメイン。倉庫に眠っていた機材を店に出し、レジも初めは手打ちで行っていた。ピーク時の97年には稚内港に年間約4千隻ものロシア船が乗り入れ、稚内市内にロシア人船員があふれていた。

しかし、稚内では、言葉の問題や偏見もあってロシア人の入店を断る店がほとんどだった。「お金を持っていない訳ではないのに、売らないのはおかしい。それは工夫が足りないのではないのか。どうしたら言葉がわからなくても商売ができるのか。吉川氏はロシア人がどんなものを求めているのか観察し、ひらめいた。「それなら、ロシア人の欲しいものリスト」を作ればいい。

吉川氏は、日本語とロシア語を併記した注文票を作り、数量だけを書き込めるようにして店頭に置くと、ロシア人はこぞ買って買物にきてくれた。

01年にはパソコンを導入して注文・購入、そして税関申告書の作成もスムーズにできる仕組みを整えた。

当初、売場では手間とコストをかけて、トマトもキュウリも小分けパックで販売していたが、「余計な包装はいらないからその分安くして欲しい」というロシア人のニーズを聞き、ならばと山積販売にした。吉川氏は、広告費は一切かけず、配達時に箱の中に次の注文票を入れるなどして、再注文と口コミによる受注拡大を狙った。中には一人で数十万円買物をする客もおり、1日の売上が2千万円になることもあった。支払いは通貨借用の面から円がドルとし、ロシアのルーブルは受け取らなかつた。

## My Reflection

「多少苦労しても風穴を開けてやることによって、次につながるべし」と次の世代へ向けて思いを強く、「仕事はどんなことも自分で汗水たらしてやってみないとわからない」とざっばらんに語る。

## 隠れたニーズの発見と「キーマン」との出会い

「サハリンバザール」を開店して半年後、吉川氏は、現地のニーズを探るべく、初めてサハリンを訪れた。

現地通訳の紹介で、食品輸入会社を経営するキム氏を訪ね、意見を交換。その際「なぜ日本ではタマネギを漬けているんだ。不思議な国だ」と言われた。当時、北海道では価格調整のため、作りすぎたり、特に日本では売り物にならない小さなタマネギは全部潰して

## が海外展開成功の近道

## ロシアでの新聞記事より

частных домов будут иметь возможность произвести оплату за услуги водоснабжения и водоотведения рядом со своим домом. Мобильный пункт приема платежей располагается прямо в автомобиле с логотипом «Сахалинский водоканал».

О времени проведения акции жители микрорайонов узнают из объявлений на подъездах домов. Частный сектор будет оповещен через объявления, вывешенные у близлежащих магазинов.

Желающим произвести оплату через мобильный пункт приема платежей необходимо иметь при себе квитанцию РКЦ с начислением платы за услуги водоснабжения и водоотведения.

нить по телефонам 72-14-28 или 43-76-21 и сделать заявку на принятие платежа на дому.

Обращаем внимание горожан:

— автомобиль — пункт приема платежей имеет логотип «Сахалинский водоканал».

— сотрудники мобильного пункта приема платежей носят на груди бейджи с фотографией и печатями ООО «Сахалинский водоканал». Имеют при себе служебное удостоверение.

О том, в каком месте в данное время находится мобильный пункт приема платежей, вы можете узнать по телефону 72-14-28.

(Пресс-служба ООО «Сахалинский водоканал»).

Думают, китайцы держат их для еды. Восточные соседи по-хозяйски обосновались у нас,

рынке, тоже боятся китайцев.  
З. ХАБИБУЛИНА,  
г. Южно-Сахалинск.



Собачий застенок — рядом с кафе «Пекин» и торговыми рядами.

## ПРИНИМАЕМ ЗАЯВКИ НА ПОСТАВКУ ПРОДУКТОВ ПИТАНИЯ НАПРЯМУЮ ИЗ ЯПОНИИ

Компания «А.О. ХОКУЮ».  
097-0024, о. Хоккайдо, г. Вакканай, Дайкоку 2-4-7.

Тел. 0162-23-2001.  
Факс 0162-24-0606.



**Высокое качество продуктов гарантируется поставщиками.**  
**Широкий ассортимент (в том числе свежие овощи, фрукты).**  
**Доставка паромом Вакканай – Корсаков в минимальные сроки.**

**Телефоны для справок в Южно-Сахалинске: 75-47-75, 47-18-60.**

# ヒューマン human



赤ちゃんの抱っこに挑戦した生徒たち



天塩高校生22人  
ふれあい体験

したり、おむつを替えたりした。  
事前に抱っここの仕方



ホクユーストア社長

よしかわ まさる  
吉川 勝さん(58)

8月24、26日にロシア  
・サハリン州ユジノサハ  
リンスクで行われた2回  
目の物産展「北海道フェ  
ア」(通称、北海道経済産  
業局主催)では、稚内の  
ロシア人向けスーパー・  
ホクユーストアが初めて  
出品した産産メロン、ス  
イカが、おいしさと安全  
・安心なイメージで大き  
な注目を集めた。  
「いずれも富良野産で、  
メロンは1玉1750円の内  
6玉入り50箱、スイカは1

## サハリンとの食品貿易に活路

玉2200円で4玉入り50  
箱を用意。中国産などに比  
べ3倍近い高値ですが、ど  
ちらも完売し、会場の大型  
店からは「来年もほしい」  
と言われました」

■ ■ ■  
現地にない冷蔵コンテ  
ナを日本側が準備し、鮮

度を保ったまま出品でき  
たことが成功の大きな決  
め手だった。同時期に輸  
出した冷凍マグロ、ハマ  
チも冷凍コンテナを用  
意。税関は通ったものの、  
ロシア側も初めて迎える  
食材とあって、検疫手続  
き終了は18日後の9月7  
日だった。

## ニーズ見極め軌道に

「従来は通関に3日から  
1週間かかっていた。事前  
に品物情報を細かく伝えた  
フエアの際は1日で済ま  
した。これが定着すれば、  
傷みやすいイチゴなどは難  
しいとしても、将来的にト  
ウモロコシなどの販路が開  
けるかもしれません。冷凍  
水産物も今回が実績にな  
り、手続き期間は短縮され  
ていくでしょう」

■ ■ ■  
当時はサハリンが品物  
不足に苦しんだ時期。2  
同社は本来、普通のス

その後は大型資源開発  
事業「サハリン2」向け  
の日本食輸出も手掛け、  
経済交流の地歩を固め  
た。稚内税関支署のまと  
めによると、稚内港の対  
ロシア貿易額はサハリン  
2の設備投資が落ちつい  
た09年の時点で輸出6億  
4千万円、輸入61億4千  
万円、12年上半期は輸出  
3億500万円(前年同  
期比11%増)、輸入17億  
6千万円(同1.9%減)  
と、特に輸出が反転傾向  
にある。

54年、稚内市生まれ。ホクユースト  
アは現在、年商1億5千万円。3人  
の娘は独立し、妻と2人暮らし。

「バーだった。稚内市内  
で水産加工会社を営んで  
いた父・土屋雄三さんから、  
93年に赤字部門だったス  
ーパー4店舗の経営を引  
き継ぎ、うち2店舗を整  
理した後、余った倉庫な  
どを利用し、需要の可能  
性を秘めたロシア人向け  
専門店を開業した。

「前年の秋、最初で最後  
のつもりでサハリン旅行し  
た際、倉庫に山積みタマ  
ネキを見ました。品質が悪  
いし、店員も2人のうち稚  
太出身の1人が片言を話せ  
てくると異臭が漂う中、「生産  
調整で捨てている北海道の  
えでスタートしたので、湯  
タマネキを、なぜ輸出しな

「相手に喜ばれる商売が  
できれば、それが次の代に  
つながると思う。稚内市サ  
ハリン事務所など、情報面  
で支えてくれる方たちにも  
感謝しています」  
稚内支局 齊川誠太郎